

群 教 セ	G11 - 01
	平 27. 257 集
	特別活動

自主的、実践的な態度を育てる 学級活動（１）の工夫

——少人数学級における、認め合い深め合う話し合い活動を通して——

特別研修員 青山 裕也

I 研究テーマ設定の理由

小学校学習指導要領解説特別活動編では、高学年において「楽しく豊かな学級や学校の生活をつくる」、
「自主的、実践的な態度」の育成を重視すると述べている。

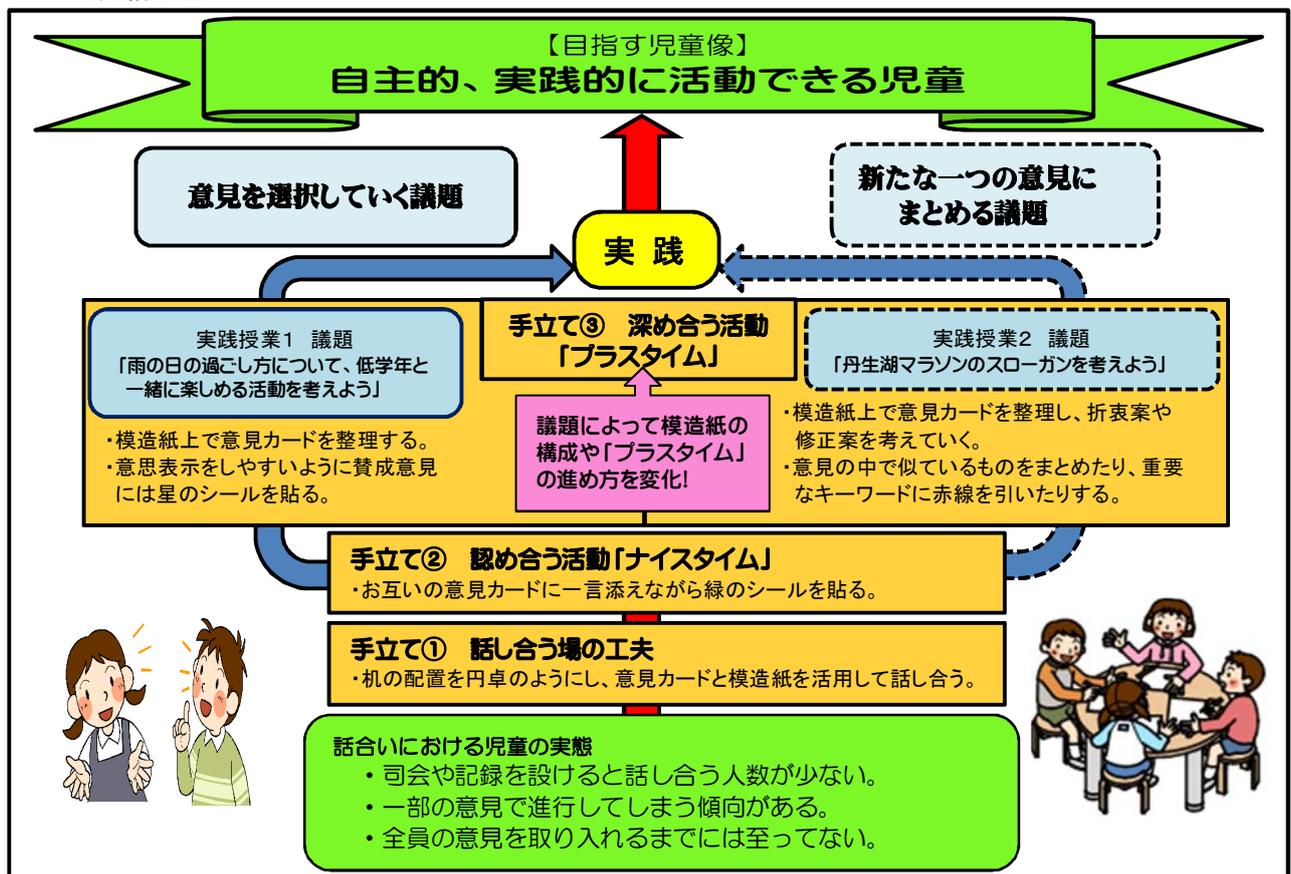
本校は、児童数 56 名という小規模校である。少人数であるため、家族のような温かい雰囲気の中で人間関係が生まれ、誰とでも仲良く話す姿が見られるなど安心して学校生活を送ることができている。一方、話し合い活動において、司会や記録などの役割を設けると、話し合う人数が減り、活発な意見交流につながらないことが多くなる。また、一部の意見で話し合いが進行してしまう傾向があり、全員の意見を取り入れ生活を改善しようとするまでには至っていない。

そこで、活発な意見交流をさせるために、机の配置を円卓のようにし、模造紙を囲みながら話し合いを行う「場の工夫」を取り入れた。また、一人一人の考えを十分に認め、話し合いを深めることができるように、認め合う活動「ナイスタイム」と深め合う活動「プラスタイム」の２つの活動を設定した。

このように、少人数学級のよさを生かした場を工夫し、認め合い深め合う活動を取り入れた話し合いを進めたり、話し合いで決定したことを実践したりすることで、自主的、実践的な態度を育てることができると考え、上記のとおり研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

(1) 実践1における研究上の手立て

議題「雨の日の過ごし方について、低学年と一緒に楽しめる活動を考えよう」（第6学年・1学期）

①話し合う場の工夫

- ・クラス全員に活発な意見交流をさせるために、机の配置を円卓のようにし、計画委員を中心に意見カードと模造紙を活用して話し合う。

②認め合う活動「ナイスタイム」の設定

- ・一人一人が自分の考えに自信を持てるようにするために、「いいな、なるほど、考えが近い」と思った模造紙上の意見カードに一言添えながら緑のシールを貼る。

③深め合う活動「プラスタイム」の設定

- ・意見を深めまとめていくために、今までの経験を生かして考え、模造紙上で意見カードを整理する。
(授業実践1の図3「模造紙上の意見カード」参照)
- ・意見カードを整理する際に、意思表示をしやすいうように賛成意見には、一言添えながら星のシールを貼る。

机の配置を円卓のようにしたことで、互いの距離が近く話しやすくなり、クラス全員が活発に意見を交流することができた。「ナイスタイム」では、意見を認められたことで、自分の考えに自信を持つことができた。また、「プラスタイム」では、意見カードごとに議題を達成できるかどうかについて話し合いを行ったことで、協議内容の焦点化が図れた。

実践1での手立ては、意見の組み合わせ等を行わず単純に選択する議題には有効であった。しかし、意見の良いところを組み合わせ、新たな一つの意見にまとめる議題に対しては「プラスタイム」の進め方に課題が見られた。そのため、実践2では模造紙の構成や「プラスタイム」の進め方を改善した。

(2) 実践2における研究上の手立て

議題「丹生湖マラソンのスローガンを考えよう」（第6学年・2学期）

①話し合う場の工夫、②認め合う活動「ナイスタイム」の設定は実践1と同様。

③深め合う活動「プラスタイム」の設定

- ・意見を深め合いながら一つにまとめていくために、議題や話し合いのめあてが解決できるかを今までの経験を生かして考え、模造紙上で意見カードを整理し、折衷案や修正案を考えていく。(授業実践2の図7「模造紙上の意見カード」参照)
- ・折衷案や修正案を考える際に、友達の意見の中で似ているものをまとめたり、重要なキーワードに赤線を引いたりする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 話し合う場の工夫により、全員が学級会に集中することができた。また、模造紙を囲みながら話し合うことで、互いの意見を間近に見ることができ、他者の意見に対して自分の考えや思いを持ち、活発に意見を交流することができた。
- 「ナイスタイム」の設定により、自分の考えが認められたという喜びを感じ、自分の意見に自信を持つことができた。
- 「プラスタイム」の設定により、模造紙上で意見カードの整理ができ、深め合いながら意見をまとめていくことができた。集団決定後には、実践に向けて児童同士が自主的に話し合ったり、最上級生として意欲的に実践したりする姿が見られた。

2 課題

- 今までの経験をもとに自分の意見を持って話し合うために、議題に関係する過去の体験が想起できるアンケート結果等を取り入れた提案理由の発表方法の工夫が必要である。また、話し合いのめあてを振り返る時間を設け、自分の意見を整理していく時間を確保する必要がある。

<授業実践>

実践 1

- 1 議題名 「雨の日の過ごし方について、低学年と一緒に楽しめる活動を考えよう」
(第6学年・1学期)

2 本議題及び本時について

本議題は、梅雨になり屋外で活動できない時、安全面に配慮しながら楽しめる活動を考える内容である。お互いの意見を認め合い、より深く考えることで低学年と一緒に楽しめる雨の日の過ごし方について話し合う活動を行った。最上級生として低学年と一緒に楽しめる活動を考えることで、最上級生としての自覚を持ち、自主的、実践的な態度が高まると考え、以下のように実践した。

3 授業の実際

(1) 話し合う場の工夫

児童の机を4つ組み合わせ円卓のようにし、計画委員を中心に座る話し合いの場を設けた(図1)。

黒板を使わずに机上の模造紙を使用して話し合い活動を行ったことで、全員が学級会に集中することができた。また、模造紙を囲みながら話し合うことで、互いの意見を間近に見ることができ、他者の意見に対して自分の考えや思いを持つことで、活発に意見を交流することができた。



図1 話し合いの場

(2) 認め合う活動「ナイスタイム」

事前に議題や提案理由、話し合いのめあてを知り、学級会ノートを活用して一人一人が意見を考えてから自分の意見カードを準備した。本時の話し合い活動では、まず、一人一人が自分の意見に理由をつけて発表した。お互いの意見を認め合うために、その意見に対して「いいな、なるほど、考えが近い」と思ったものに一言添えながら意見カードに緑のシールを貼った。発表が苦手な児童に対しては、学級会の進め方や話形を示したアドバイスカードを確認しながら発表するように伝えた(図2)。

振り返りでは、「進んで発表をしたり意見を認めたりできて良かった」、「自分から意見を発表できた」という発言があり、認め合うことができた喜びを感じ、自分の考えに自信を持っている児童が多く見られた。また、意見を認められたことで、その後の話し合いの場面で自分の意見に対する反対意見が出されても、相手の意見を素直に受け容れることができた。

議題	雨の日の過ごし方について、低学年と一緒に楽しめる活動を考えよう。
理由	雨が降っても、休み時間に低学年と一緒に楽しめると思うから。
めあて	低学年と一緒に楽しめること。校舎内を走らない。大声を出さない。
学級会の進め方	
①	議題と提案理由、めあてを確認し、先生の話聞く。
②	一人一人が意見を発表し、お互いの考えのよさを認め合う。[ナイスタイム] ※「いいな、なるほど、考えが近い」と思う意見に緑のシールを貼る。
③	賛成・反対意見を話し合い、深め合いながら意見をまとめていく。[プラスタイム] ※賛成には、自分の意思を表しやすいように星のシールを貼る。
④	決まったことを確認し、先生の話聞く。
〈約束〉	
・新しい意見を発表するときは、「はい」と言ってから話し出す。	
・友達の意見は最後まで聞く。	
・全員が納得できるように反対している友達の意見も聞く。	
アドバイスカード	
ぼく(わたし)は〇〇〇〇 がいいと思います。 理由は〇〇〇〇だからです。 同意するとき ぼく(わたし)もそう思います。 ぼく(わたし)も同じです。	

図2 学級会の進め方とアドバイスカードの提示

(3) 深め合う活動「プラスタイム」

「プラスタイム」では、「ナイスタイム」で出された意見が提案理由や話し合いのめあてに沿った意見かどうかを考えた上で賛成や反対意見を述べ、模造紙上で意見カードを整理していく活動を設定した。賛成する意見カードには星のシールを貼ることで、一人一人の意思を把握できるようにした。全員が納得できた意見（賛成）と、一人でも反対があった意見（両方）を分け、話し合いのめあてに沿った意見交換をしていったことで、集団決定につながった（図3）。

「プラスタイム」で出された反対の理由としては、「あぶない」や「ルールが難しい」など、これまでの遊びの経験から低学年のことを考えた意見が述べられた（図3）。提案理由やめあてに振り返り、危ない活動や難しい活動をやめ、雨が降っても休み時間に低学年と一緒に楽しめる活動として「だるまさんが転んだ」と「新聞じゃんけん」に決定した。

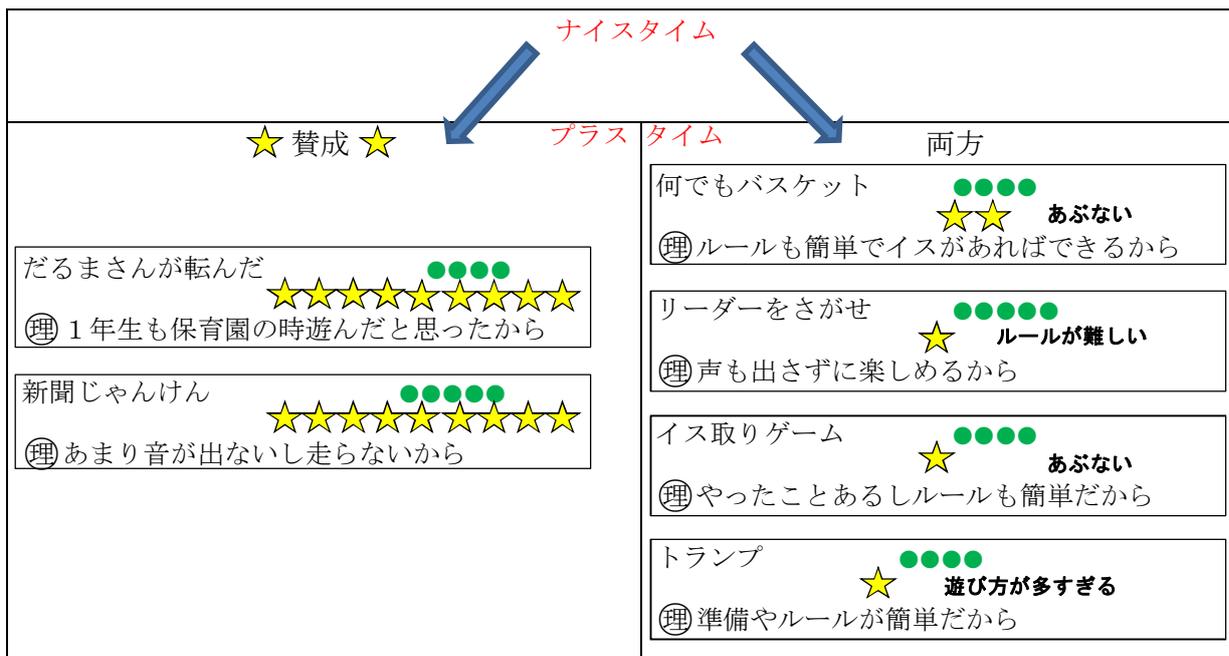


図3 模造紙上の意見カード

(4) 実践の様子

話し合いで決定した2つの活動を計画委員が中心となり1年生に提示した。1年生が「新聞じゃんけん」を選んだので、雨の日の休み時間に実践した（図4）。6年生は実践の日に向けて、役割分担を決めたりルールを考えたりするなど、自主的に児童同士で話し合う姿が見られた。また、実践後には「低学年に喜んでもらえて良かった」、「協力することの大切さや楽しさが分かった」という感想が多くあった。



図4 実践の様子

4 考察

少人数学級のよさを生かして話し合いの場を工夫したことで、クラス全員が活発に意見を交流することができた。また、「ナイスタイム」において意見を認められたことで、自分の考えに自信を持つことができ、発表の苦手な児童も緑のシールを貼る作業によって意欲的に話し合いに参加することができた。「プラスタイム」では、これまでの経験をもとに賛成や反対意見を出し合い、議題や話し合いのめあてを意識しながら話し合うことができた。

実践1では、意見を選択し決定していく議題であったが、意見を組み合わせるなどして、新たな一つの意見にまとめる必要のある議題に対しては、模造紙の構成や「プラスタイム」の進め方の改善を図る必要がある。

実践2

1 議題名 「丹生湖マラソンのスローガンを考えよう」(第6学年・2学期)

2 本議題及び本時について

本議題は、「運動会が終わり、みんなの気持ちがばらばらにならないように、丹生湖マラソンに向けて全校で練習や本番を頑張りたいから」という提案理由により話し合った。

10月の運動会では、全校が一つのスローガンのもと一生懸命練習に取り組み、本番も成功に終わった。そこで児童は、次の体育行事である丹生湖マラソンも盛り上げたいという思いから本議題を提案した。計画委員との話し合いは、全校の意欲が高まり、最上級生の意欲的な活動により、全校で取り組んでいこうとする思いを伝えるために、マラソン練習の開始段階から意欲的に取り組むことができるスローガンを考え、体育集会で全校に発表することにまとまった。

以上のことから、丹生湖マラソンのスローガンを考え、取り組んでいくことで最上級生としての自覚を持ち、自主的、実践的な態度が高まるのではないかと考え、以下のとおり実践した。

3 授業の実際

(1) 話し合う場の工夫

実践1と同様に、机の配置を円卓のようにし、計画委員を中心として児童が模造紙を囲んで話し合いができるようにした。互いの意見を間近に見ることができ、模造紙上で意見カードを整理したり必要な言葉や矢印などを直接模造紙に書いたりすることができた。また、話し合いの進行は計画委員が中心となって行うが、模造紙を囲んで話し合っているため全員が協力しながら話し合いを進めることができた。

(2) 認め合う活動「ナイスタイム」

実践1と同様に、「ナイスタイム」では一人一人が自分の考えに自信を持てるようにするために、お互いの意見カードに「いいな、なるほど、考えが近い」と思ったものに一言添えながら緑のシールを貼る活動を行った(図5)。友達の見解にしっかりと耳を傾け自分の経験に基づいて良いところを認めていくことで、意見を発表した側も認めた側もとても良い表情をしていた。

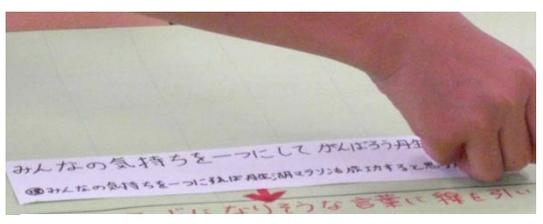
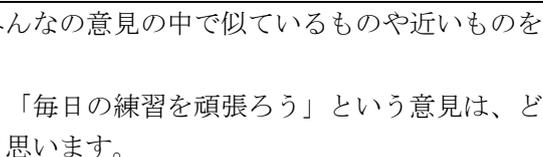
「ナイスタイム」で話し合う様子	
計画委員：それでは「ナイスタイム」です。みなさん意見を発表してください。	
児童1：私は、「みんなの気持ちを一つにしてがんばろう丹生湖マラソン」がいいと思います。理由は、みんなの気持ちを一つにすれば丹生湖マラソンも成功すると思うからです。	
児童2：「みんなの」という言葉があると全校児童で頑張っていこうという思いが感じられるのでいいなと思います。	

図5 「ナイスタイム」の意見カード

このように、ただ意見を認めるのではなく議題の提案理由や話し合いのめあてを振り返りながら自分の意見を発表することもできた。

(3) 深め合う活動「プラスタイム」

実践2の「プラスタイム」では、全員から出された意見からより良い1つの意見にまとめていくために、友達の見解の中で似ているものをまとめたり重要なキーワードに線を引いたりしながら、模造紙上で意見カードを整理し、折衷案や修正案を考えていった。

「プラスタイム」で話し合う様子	
計画委員：それでは「プラスタイム」です。はじめに、みんなの意見の中で似ているものや近いものを分けていきましょう。	
児童1：僕は、「本番と同じ距離の練習を頑張ろう」と「毎日の練習を頑張ろう」という意見は、どちらも練習を頑張ろうという考えが似ていると思います。	

計画委員：この2つが似ているという意見がありましたけどどう思いますか。

児童2：私も似ていると思います。

計画委員：次に、スローガンに入りたいキーワードはありますか。

児童1：「最後まで」という言葉があると練習も本番もあきらめずに走れそうな気がします。

児童2：「一等賞」は、全員が目指したいと思うので使いたいです。

計画委員：それでは、今までの意見の良いところを合体させたり、新たな言葉を考えたりしてより良い意見を生み出しましょう。

児童3：「最後まで笑顔で目指せ一等賞」がいいと思います。理由は、最後まで笑顔で頑張れば順位に関係なく、自分の中で一等賞が取れると思うからです。

児童4：本気で頑張れば最高の一等賞になるので「最高の」という言葉も入れたいです。

児童5：「最高の」という新たな言葉も入っていいなと思います。

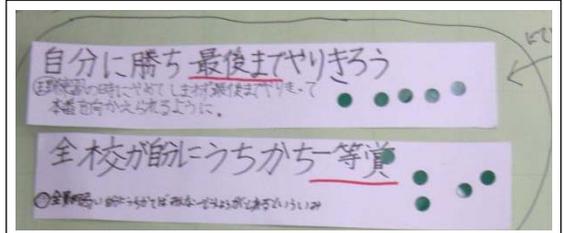


図6 「プラスタイム」の意見カード

このように、似ているものや近いもので分けたりキーワードに線を引いたりしたことで意見が整理され、みんなの意見の良いところを組み合わせながら、新たなより良いスローガンを考えることができた。

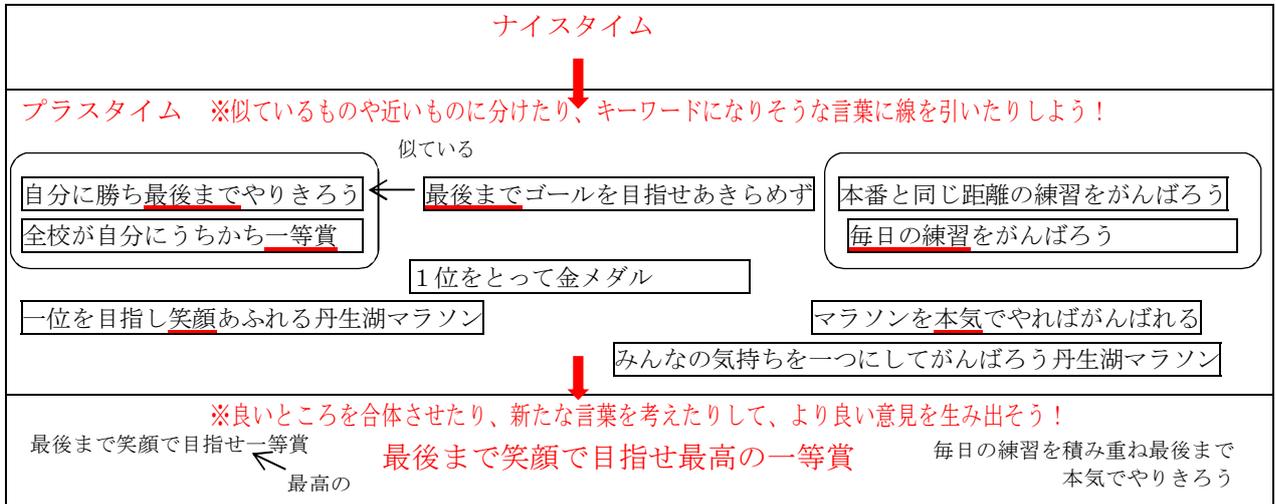


図7 模造紙上の意見カード

(4) 実践の様子

4～6年生が各学級で話し合っ決定したスローガンを体育委員会で協議し、6年生の考えたスローガンに決定した。そのスローガンを体育集会で発表し、丹生湖マラソンに向けての練習がスタートした。体育委員会で作成したスローガンも玄関前の廊下に掲示したことで、毎日児童が意識しながら学校生活を送ることができた。登校後や放課後、業前活動や20分休みには自主的に走っている児童の姿が多く見られた。

4 考察

実践1と同様に、話し合う場の工夫や認め合う活動「ナイスタイム」を取り入れたことで、クラス全員が活発に意見を交流したり、自分の意見に自信を持って発表したりすることができた。また「プラスタイム」のときに模造紙の構成を図7のように改善し話し合いを進めたことで、それぞれの意見の良いところを組み合わせ、新たな一つの意見を決定していく議題に対応することができた。

実践2も計画委員を中心に、児童が自主的に話し合いを展開することができたが、新たな課題も見えてきた。それは、自分の意見や理由を発表する際に過去の経験をもとに自分の思いを伝えていくことが不十分であったことである。今後は、提案理由や話し合いのめあてを発表する際、議題に関係する過去の体験が想起できるアンケート結果を取り入れるなどの工夫が必要である。